

The Sounds on Silence

～ささやきの聞こえるライブ (11040A)～

大曾根 圭輔 (システム情報工学研究科
博士後期課程 3年)



「つくばで、夜に、野外でライブが見たい」

The Sounds on Silenceは、声や楽器の音をスピーカーから直接流すのではなく、FM電波で発信し、観客がそれをラジオで受信し、ヘッドフォンを通して音楽を楽しむという少し変わったライブです。スピーカーを用いないことで、野外での音楽フェスティバルにおける騒音問題を解決し、新しい音楽の在り方を創り出す枠組みのライブです。

新しい音楽の楽しみ方

私は、筑波大学において音楽で面白い「お祭り」みたいなものがないかと考えており、「せっかく筑波大学は広いキャンパスがあるのだから野外フェスみたいなものがないか」「バンドライブに一般のお客さんを多く呼びたい」と常日頃から思っていました。しかし、気づいたら私も筑波での最終年…あきらめかけていたところに友人から「スピーカーから音を出さずにライブができるかも」との提案がありました。そこで「新しい音楽の枠組み」で「夜に野外ライブ」を行うことを考え、バンドサークルやT-ACTの活動で知り合った友人を誘いT-ACTの活動として申請をしました。



みんなラジオでライブを楽しんでいます

運営にあたって

とにかく何もかも初めてのイベントだったので、見通しもなにもなく大変でした。最初にメンバーを集めた段階でも人材が明らかに足りず、メンバー同士のつながりで運営メンバーを募りました。さらに、機材の面でもラジオ (FM電波) を用いてライブを行うのは電波法に抵触しないのか、音質に問題はないのか、演奏と音の時間遅れはないのか…などなど、多くの問題が発生し、本当に開催できるのか? など不安に思うこともありました。さらに場所の選定に

も時間がかかり、節電中ということもあり、設備の利用時間が制限されており、開催時間の設定にも紆余曲折がありました。メンバーそれぞれが精力的に動き、試行錯誤や交渉を重ねることで、最終的には筑波大学構内の野性の森で無事に開催することができました。

こだわり

The Sounds on Silenceでは運営メンバーのいろいろなこだわりをライブに反映しました、WEBサイト、ステージ装飾、照明、当日のパフレット、FRAT (つくばフェアトレード推進委員会) さんなどへの出店の交渉…特に夜間にまでライブを開催するという事で照明や演出に力を入れました。スタッフそれぞれのこだわりへの妥協なき姿勢が、観客のみなさんに喜んでもらえる結果につながったと思います。

The Sounds on Silenceを終えて

9月18日に開催したThe Sounds on Silenceの本番には多くの人に来てもらいました。アンケートでも「非常に満足だった」「会場全体の雰囲気がとてもよかった」「演奏だけじゃなく、空間そのものを楽しめる創り方が素敵だった」などの感想をいただくことができました。

The Sounds on Silenceの枠組みはいろいろな分野との親和性があると思っているので、都市型の新たなミュージックフェスティバルへの布石になるといいと思っています。運営面では、T-ACTでのアクションの本質である(?) イベント企画を通じて、何かを達成すること、いろいろな人と関わることがかけがえのない財産になるという事を実感しました。今後も筑波大学発の面白い企画が出てくるといいですね。



夜の演奏